

南京証言集会 2014

ヘイトスピーチ・排外主義の嵐の中で

今こそ南京大虐殺を問う



12月7日(日)

1:30開会 2:00開始

エルおおさか 6F 606号

証言 艾 義 英

南京大虐殺幸存者・1928年生の女性

講演 丹羽雅雄 (弁護士)

「排外主義のはびこる今を考える」

報告 宮田 幸太郎 (フォトジャーナリスト)

「南京の記憶」

主催 南京大虐殺60カ年大阪実行委員会

協賛「ピースおおさか」の危機を考える連絡会

連絡先 TEL 080-3822-0404

資料代

1000円

学生など

500円



南京証言集会2014

今年も南京証言集会の季節がやってきました。私たちは「南京大虐殺の加害の展示が『ピースおおさか』から消える！」という記事が昨年新聞に報道されてから一年半、ずっとピースおおさかの問題に取り組んできました。ピースおおさかは八月末で閉館し、リニューアル工事に入っています。10月議会に出された議員向けの資料にあった「リニューアルの映像シナリオ」は、今までの15年戦争を描いてきた展示とは、見紛うほどの変容ぶりで、先の戦争を正当化し、「平和資料館」にはおよそふさわしくないものです。

今般、朝日新聞の誤報問題をきっかけに一気に右の陣営が勢いづいてきて、「慰安婦」問題を中心に組織的に取り組まれている、いわゆる「ねつ造パネル展」、市議会では「意見書見直し」の決議案が何か所かで可決されてしまいました。

そんな情勢の中、私たちは今こそ、「被害者の声に耳を傾け、満身を振り絞って語られる被害者が体験した歴史の事実を、しっかりと心で受け留め、向き合うこと」の大切さを感じます。

毎年お呼びしている南京大虐殺の被害に遭われた方々も年を重ねられ、多くの方が無念のまま亡くなっています。今年はもう無理かもしれないという懸念と不安の中、例年のように何か所もの証言は幸存者の方への負担が大きすぎるということで、南京大虐殺記念館の取り計らいの下、大阪・名古屋・東京の三か所のみの開催ということになりました。

橋下市長は、戦後体制の枠組みを受け入れるためには南京は語らなければならぬが、抑制的な表現にとどめ、「捕虜や婦人や子どもたちへの被害」という文言は削除すべきだといっています。

南京大虐殺は、その殺戮の規模においても多大な被害者を出しただけでなく、海外では「南京レイプ」と呼ばれたほど、日本軍による婦女子への性暴力はすさまじいものでした。それをきっかけに日本軍「慰安婦」制度ができたとまで言われています。

福沢諭吉が「脱亜入欧」を唱えた日本の近代化の始まりから、日本人はおとなも子どもも、中国人のことを人間として見ていませんでした。関東大震災の時は多くの朝鮮人と共に中国人も虐殺されていたことが明らかになっています。

その差別と排外主義は、昨今の「ヘイトスピーチ」などに見られる排外主義と根っこは同じです。

「天皇の軍隊」による大義のない戦争により、排外主義を利用して行われた南京大虐殺。

戦後70年を前に、またもや同じような嵐がメディアをも動員して吹き荒れています。

「あったことはなかったことにはできない！」「事実は

消せない！」

今年も証言者の声に耳を傾けてください。

また、南京大虐殺の被害者の方々の写真を撮り続けておられる若い世代の宮田幸太郎さんから南京での取材で感じたことなどを伺います。

そして、なぜ今、排外主義の「ヘイトスピーチ」の嵐が吹きまくっているのか？ 弁護士の丹羽雅雄さんに語っていただきます。

「なぜ、南京大虐殺は起こったか」「何故、南京大虐殺の実相が『ピースおおさか』から消されようとしているのか？！」会場の皆さんと共に考えていきたいと思います。是非、みなさんご参加ください。

ゲストのみなさん

アイイーイン
艾義英さん 1928・7・14 生まれ。



南京市玄武区在住。南京大虐殺を9歳で体験。親戚や多くの男性が連行され、殺されたり重傷を負う。父は後に死体で発見される。山に一緒に隠れていた従妹も一時連行される。

丹羽雅雄さん 1948年愛知県生まれ。



大阪弁護士会人権擁護委員会、「すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク(RINK)」、外国人人権連絡会共同代表、移住労働者と連帯する全国ネットワーク共同代表。在日鄭商根(旧軍属)戦後補償裁判、在日地方参政権訴訟、朝鮮学校への高校無償化法適用取消裁判、フィリピン母娘退去強制処分取消裁判、嘉手納爆音裁判、沖縄日の丸裁判、小泉靖国違憲沖縄裁判など、社会的マイノリティーの人権問題などに取り組む。主著『知っていますか？移住労働者とその家族の人権一問一答』(解放出版社 2011)「マイノリティと多民族社会 国際人権時代を問う」(解放出版社 2003)など

宮田幸太郎さん 1974年生まれ。

2010年 DAYS フォトジャーナリズム学校卒業後、南京に通い始める。

2013年3月 第9回 DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞にて生存者15人の写真で3位に入賞。

同年4~7月 中国南京にて52人の生存者の写真展。



会場アクセス

「エルおおさか」

地下鉄谷町線、又は京阪電車天満橋駅下車 西へ徒歩7分